

夢を実現するために

草島 佑介 (高51)

夢を追いかけてスーツケース一つでアメリカへ！
地道に歩むも人生なら、未知の可能性に向かって
チャレンジするのも人生！



いつかは…！

"Berry335.Runway 18R.clear for takeoff" ニューヨークJFKの管制塔からの合図で滑走路に飛行機がゆっくりラインアップするときはいつものことながら緊張が走る。「さあいくぞ！」2本のパワーレバーをゆっくり前に出す、計算出力は97.5%、「set power」モニター・・・飛行機が加速し、体がシートに押し付けられるこの瞬間が好きた。視線を滑走路に集中し、リーダー（方向舵）を操りながら飛行機を滑走路のまんなかを保つ。

龍城山下のなかまたち

"Power is set,Airspeed is alive, 80kts cross checked!" 機長の声。操縦桿を引く、オート・パイロット・オン。朝霧が晴れ始めたマンハッタンを見下ろしながら秋空の中、上昇する。

アメリカに来てちょうど10年目。「アメリカンドリーム」とは、誰にも与えられた機会を一人一人が努力と苦労で手に入れることであって、決して簡単ではない。

高校時代、ぼくはどうしてもパイロットになりたかった。当時日本は視力検査が厳しく、パイロットになるのはほぼ無理だったが、しかし、アメリカでは視力に関係なく飛行でき、また、パイロット養成の大学があることも知り、留学を決意。スーツケース一つでこのアメリカにきた。

アメリカには、パイロットになるため日本のような自社養成のシステムはない。ほとんどがライセンスを実費で取り、そのあと飛行

教官などをして経験を積み、コミュニティー会社で副操縦士、機長を勤め、大手の航空会社に入り徐々に大きい機へとステップアップしていく。チャンスは誰にでもある分、実力と実績主義なので他の経験豊富なパイロットと競争しながら這い上がっていかねければならない。

ましてぼくのような「外国人」パイロットには、永住権を取得する必要や、2001・9・11のテロ以降設立された法律で、訓練ごとに指紋や政府の許可を取らなければならぬなどのハンディもある。そして何よりもプロフェッショナルな英語力が不可欠である。

僕は大学で、Aviation Scienceを専攻、Businessを副専攻して訓練に明け暮れ徐々にパイロットのライセンスを取得。卒業間際に大手アメリカン航空でインターンを経験。ダラスの本社で働きながら、業界の厳しさを経験すると同時に、スケールのかさに魅了され、将来はせつたいに大手のパイロットになつてやるぞと決心した。

飛行教官のライセンスを取り大学を卒業。しばらくは飛行学校の教官となり経験を積み2年前から現在の航空会社で副操縦士として働いている。定期運送用操縦士の資格も取り、次のステップは機長にといったところ。

僕のようなパイロットは、資格を取得したら終生安泰ということ

ではなく、常にシミュレーターでの訓練や、身体検査があり、勉強の毎日。操縦検査を繰り返して緊急時でも対応できる万全の技術と知識を持つことが必要だから…。

華高生のときは、正直言って英語がとても苦手だったが、こちらに来てからは、とにかく積極的にしゃべらなければと思い、いろいろなイベントやサークルに参加。同じ学部のアメリカ人の友だちに発音を直してもらったりして、飛行訓練に明け暮れているうちに上達していった。

大学の寮生活では、アメリカ人以外のいろいろな国の留学生と友達になれ、それが大変なメリットに。夜遅くまで世界情勢について熱く論議したのは、ある意味でほんとの国連会議となったのが、今でも懐かしい。

それらの友とは、今でもヨーロッパを旅行するたびに訪問したりして交流が続いている。



僕の妻はドイツ人。まさか自分が国際結婚をするとは思ってもしなかったが、2009年5月、8年付き合っていた彼女と結婚した。結婚式では日本、ドイツから家

族と親戚がきて、地元の友人知人を含めて3ヶ国語が入り交じった。一時はどうなることかと思ったが、不思議と皆コミュニケーションが取れて、国や言葉は関係なくダンスに興じ、盛り上がりつつ大成功。とても意味あるものだった。

アメリカでは市民権を取得し永住権を取って5年経つと帰化できる。一昨年、生活も定着もしてきたし、仕事上有利なので、妻や両親と相談の上、帰化した。この決断が過去10年間で一番難しかった。そのおかげで今、こうして「空」を飛んでいられるのだ。

ニューヨークを飛び立ってから20分、フライトアテンダントがコーヒを持ってきてくれた。熱いのをすすりながら窓下を見るとまだ明けきらない下界では通勤ラッシュの、渋滞の車のライトがハイウェイの曲線を映し出す。やがてまぶしい朝日が左の窓から顔にあたる。朝一番のフライト、コーヒがとてもおいしくパイロットになつてほんとはよかったです。

自分のやりたいことをやれるのはとてもありがたく幸せなこと・・・その環境を与えてくれた両親や家族に感謝しない日はない・・・そのためにもこれからもがんばってステップを越え、飛び続けていく・・・夢を実現するために。

担当 関和真(高20)